

# 会 議 録

会議名 (審議会等名)	第23回相模原市観光振興審議会		
事務局 (担当課)	市長公室 政策部 観光政策課 電話042-769-8236 (直通)		
開催日時	令和7年8月6日(水) 午後3時から午後4時30分まで		
開催場所	相模原市民会館2階 第2中会議室		
出席者	委員	7人	
	その他	-	
	事務局	9人 (鈴木観光政策課参事兼課長ほか8人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議題 第3次相模原市観光振興計画に基づく各施策の進行管理について 3 その他 4 閉会		

# 審 議 経 過

## 1 開会

### 2 議題：第3次相模原市観光振興計画に基づく各施策の進行管理について

内容について事務局が説明を行った。委員の主な意見は次のとおり。

- 基本方針・施策と事業の関連性について（梅川会長）  
⇒ 観光振興計画 P33 の考え方に基づいて、事業を実施している。（鈴木課長）
- ワークーションなど資料1に記載された4事業は、計画上の位置付けはあるか。（梅川会長）  
⇒ 計画上で具体的な位置付けはなく、サイクルツーリズム推進事業は東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、市民協働提案事業は市民からの要望により、ワークーション・ブレッジャー推進事業及びマイクロツーリズム促進事業は、コロナ禍の影響により実施することとした。社会情勢や需要に応じて随時事業を検討し、4事業は、前回の審議会では今年度の重点事業として承認済み。（鈴木課長）
- ワークーションについて、上大島キャンプ場の利用者は仕事と休暇を分けて考える傾向があり、事業推進には懸念がある。モニター調査の実施概要や結果を知りたい。（吉村副会長）  
⇒ 委託事業者がツアープランを立案し、企業がモニターとして参加。（小峯主査）  
⇒ 本市のワークーションは、個人客向けではなく企業研修向けとしている。（鈴木課長）
- モニターツアー参加者の感想は。（楢見委員）  
⇒ 今回参加した企業は保育園の運営会社であったが、「普段顔を合わせない者同士との共有や他園の状況把握ができ、仕事での連携がしやすくなった。」という意見があった。（小峯主査）
- 今後の展開は。（八木委員）  
⇒ 受入施設の拡大を目指し、特設サイトで募集・情報発信を行う。最終的には、「ワークーションでチームビルディングといえば相模原」というイメージ造成を目指す。（小峯主査）
- コンテンツ内容は、全て市で作るのか。（小泉委員）

⇒ モニターツアーの内容は委託事業者が作成していたが、今後は各施設管理者がコンテンツを作成する。市は参加者全員で協力して行うコンテンツ造成に補助を行う。(小峯主査)

⇒ 農業体験など様々な体験が可能な施設を掲載し、利用者の幅広いニーズに答えたい。(鈴木課長)

○ 陣馬山ナイトウォークの今後のPR方法や売りは。(小泉委員)

⇒ 国庫補助金を活用しPR活動を実施する。売りは、「日常から離れ、自然や自分と向き合う時間」を提供できる点と考えている。(鈴木課長)

○ 外国人アンバサダーツアーは、どの国をターゲットにしているのか。(小泉委員)

⇒ 今年度は試行実施しているものであり、モニターツアーを基に今後のインフルエンサーでの発信事業を構築予定である。今年度は、相模原ビジネス専門学校と連携し、ネパールの方とフィリピンの方を起用。(鈴木課長)

○ 国ごとのアピール方法は異なるため、外国人留学生や企業からの意見も参考になる。(小泉委員)

○ 外国人が魅力的だと感じるものは何か。(齊藤委員)

⇒ 食や体験など多様。今回のツアーでは、こちらが魅力を感じるものとは異なる点に興味を示していた。外国人視線を今後も学んでいく。(鈴木課長)

○ 富士急グループから見て、相模湖は外国人が少なく、桜やイルミネーション時期にわずかに来訪。シーズンに合わせた宿泊施設を起点とした観光ルートの提供が必要。(鈴木委員)

○ ツアーパッケージを作成し、海外の観光展示会で発信・調査するべきと思う。(八木委員)

⇒ 実際に海外へ行き、現地の意見収集も必要。(小泉委員)

○ 各エリアのコンテンツは市内向けか。(八木委員)

⇒ エリア協議会事業は市外もある。例えば、葉山島のお米作り体験には市外の方も参加されている。(齊藤委員)

⇒ その他の各エリアコンテンツも市内外で限定はしていないと思う。(吉村副会長)

○ 高尾山からの誘致を検討し、城山～高尾山間を歩いたが整備不足で登山が困難で

あったため道の整備を要望する。過去に電鉄会社へも要望したが困難との回答。(齊藤委員)

⇒ 課題として認識しており、現地確認も実施済み。今後の対応を検討する。(鈴木課長)

○ 登山道の整備は市が行うのか。(梅川会長)

⇒ 一部は県から受託して市が管理している。(鈴木課長)

○ 地域別計画は市観光振興計画と同じ位置づけなのか。(梅川会長)

⇒ 当初は市観光振興計画作成時に各地域の計画も策定。その後の進捗は地域主体で進行。(鈴木課長)

○ 地域と観光政策課との双方向のコミュニケーションはあるのか。(梅川会長)

⇒ まちづくりセンターを通じた把握と直接把握している団体があり、対象範囲で区分している。(鈴木課長)

⇒ 連携不足や事業重複の可能性もあるため、観光政策課がある程度関与すると、より効果的なものになると思う。(梅川会長)

○ 市観光振興計画とエリア別の計画との関係性は。(梅川会長)

⇒ 各地域での取組みはミクロな視点、市の計画は市全体のマクロな視点で捉えている。(鈴木課長)

⇒ 資料の整理の仕方を検討してほしい。事業主体ごと整理された資料と、エリアごとに整理された資料形式の両方が良いのではないか。(梅川会長)

○ DMOの加入について検討しているのであれば、事前に十分な調査・学習が必要。(梅川会長)

○ 津久井湖にランタンを上げるみんなの津久井湖夏祭りは珍しい催しのため、PRを強化すれば魅力創出につながると思う。(小泉委員)

○ 昨今の猛暑で市営キャンプ場の夏の来場者数が減っている。キャンプ場での観光振興のやり方を検討していく必要がある。(吉村副会長)

⇒ さがみ湖 MORIMORI のキャンプ場も猛暑による影響を受けている。エアコン設置など、猛暑対策を実施している。(鈴木委員)

### 3 その他

- 國學院大学観光まちづくり学部で実施している取り組みについて、梅川会長から紹介された。
- 次回は令和8年2月頃の予定である。会議の議事録は事務局が作成し、各委員にご確認いただく。(鈴木課長)

### 4 閉会

## 第 2 2 回相模原市観光振興審議会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者	梅川 智也	國學院大學	教授	審議会 会長	出席
	小泉 京美	相模女子大学	教授		出席
公募委員	八木 泰子	公募委員	—		出席
関連団体	齊藤 郁午	津久井地域商工会連絡協 議会 城山商工会	事務局長		出席
	根本 敏子	(公社)相模原市観光協会	副代表理事		欠席
	吉村 幸弘	大島観光協会	会長	審議会 副会長	出席
民間事業者	鈴木 康弘	相模湖リゾート (株)	代表取締役 社長		出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道 (株) 橋本駅	駅長		出席
	中嶋 博茂	(株) J T B 相模原支店	支店長		欠席